

# 「国語」・「数学」・「理科」の力と学習の様子

～『R7 全国学力・学習状況調査』から～

今年度は、国語、数学、理科の調査が行われました。どの教科からも、学校での授業の工夫や家庭での学習の様子がうかがえました。

🌸は良いところ ➡は伸ばしたいところ

## 【国語】

- ① 学習指導要領の内容における結果 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の6つの内容からの出題でした。（今回は「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」からの出題はありませんでした。）

🌸・・・「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、全国の平均正答率を上回っています。

➡・・・「読むこと」において、③のような課題が見られました。

### 【国語の平均正答率】

全国、県、本市の比較位置

◆福井県

●越前市

■全国54.3

全国の平均を上回り、  
県とほぼ同じでした。

## ② 特に正答率の高かった問題

🌸・・・「書くこと」において、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる」問題では、全国・県平均を超える正答率でした。文章構成において、項目ごとの内容のまとまりをどのような順序で示すべきかについて、読み手を意識した文章を考えることができます。

🌸・・・「書くこと」において、「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」問題では、全国・県平均の正答率を上回っています。文章を書く上で、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができます。

## ③ 課題

➡・・・「読むこと」において、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題に課題が見られます。文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが重要です。

## 【数学】

- ① 学習指導要領の領域における結果 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4つの領域からの出題でした(今回は「測定」領域からの出題はありませんでした)。

❁…「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域で、全国  
の平均正答率を上回っています。「図形」「関数」「データの活用」  
の領域において、県の平均正答率を上回っています。

### 【数学の平均正答率】

全国、県、本市の比較位置

◆福井県

●越前市

■全国48.3

全国の平均を上回り、  
県とほぼ同じでした。

- ② 特に正答率の高かった問題

❁…「図形」の領域において、「多角形の外角の意味を理解しているか  
どうかをみる」問題がよくできています。多角形の外角の意味の理  
解を、図形の性質を考察したり、証明したりする学習活動につなげ  
ていくことが大切です。

❁…「データの活用」領域における「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題がよくできていま  
す。不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、相対度数の意味を理解し、数や  
式、表、グラフなどを活用して、数学的に処理することができています。

- ③ 課題

➡…「数と式」領域において、数学的に考察する場面において、事柄が常に成り立つとは限らないことを反例  
をあげて説明することや、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだして説明することに課題が見ら  
れました。事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て、文字式や言葉を用いて根拠を明確にして説  
明できるようにすることが大切です。さらに、問題解決の過程や結果を振り返りながら、統合的・発展  
的に考察できるようにすることが大切です。

## 【理科】

- ① 学習指導要領の領域における結果 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」  
を柱とする4つの領域からの出題でした。

❁…「粒子」「生命」を柱とする領域で、全国の平均正答率を上回って  
います。また、問題形式が「記述式」の設問において、そのほとん  
どが全国平均を上回る正答率および無回答率です。

### 【理科の平均 IRT スコア】

全国、県、本市の比較位置

◆福井県

●越前市

■全国50.3

全国の平均を上回り、  
県とほぼ同じでした。

- ② 特に正答率の高かった問題

❁…「粒子」を柱とする領域において、「気体の密度の大小関係を分析  
して解釈できるかどうかをみる」問題がよくできています。観察、実  
験を基に、空気、プロパンガス、都市ガスの密度の大小関係を判  
断することができています。

❁…「生命」を柱とする領域において、「生き物の体のつくりについて、共通性と多様性の見方を働かせなが  
ら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することをみる」問題がよくできています。生物が生命活動  
を維持するための各器官のつくりについて、「表面積」が関係していることを理解しています。

- ③ 課題

➡…「エネルギー」を柱とする領域において、「電気回路に関する知識及び技能を活用して、結果を予想する  
ことができるかどうかをみる」問題や「抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる」  
問題に課題が見られました。実験を行う際、結果について見通しをもつことや、測定値が予想と異なっ  
た場合、結果や方法を振り返ることなどの活動を行い、日常生活や社会と関連付けて知識を概念とし  
て身に付けることが大切です。